

## 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ⑤他分野の大学院生との共同研究の実施

##### 《理工農系》

##### ●横浜国立大学環境情報学府情報メディア環境学専攻

##### 「医療・福祉分野で活躍できる情報系人材育成」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

ソフトウェア開発の実践的な実習科目として、SIPプロジェクトを実施した。これは、他分野で必要とされるソフトウェアを本学学生が自ら企画・立案し、ソフトウェアの設計、開発、取扱説明書の記述などのドキュメント整備にいたるまで全てを行う、というものであった。ここで、ニーズを知るために医学・福祉分野の学生との共同研究が行われることを期待していたが、活発に交流が行われるまでに長い道のりがあった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

特に医学分野において、きわめて高度な専門知識が求められることから、学生主導で共同研究を行うのは軌道に乗るまではなかなか難しかった。また教員にも異分野との連携に温度差があり、研究室の偏りは否めなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

医学・福祉の分野では当たり前であることの中に、工学分野の人間にとっては当たり前でないことがある、ということを先方にもご理解いただき、最初は基礎知識を学ぶところからはじめ、徐々にニーズとシーズのマッチングを考えていくようになった。その結果、毎年数件ずつSIPプロジェクトを実施でき、成果発表会を開催できるまでになった。